



# NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和6年9月20日

## 内航船員の確保・育成対策

京都府立海洋高等学校の学校説明会に併せて

「内航船員紹介ブース」/海洋高校生対象「内航船見学会」等を開催

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、若年船員だけでなく、海上経験を有する退職海上自衛官など内航海運業界にとって有効な人材の確保に向けて各種の事業を実施しています。

今般、京都府立海洋高等学校の実習船「みずなぎ」が大阪港に入港した際、学校説明会及び船内見学会が開催され、全国内航タンカー海運組合関西支部・薬槽船支部と近畿内航船員対策協議会は、参加した中学生とその保護者対象に、「内航船員紹介ブース」を出展しました。また、京都府立海洋高等学校の生徒及び教員を対象に、内航船の船内見学会及び操船シミュレータ体験を実施しましたのでお知らせいたします。

実施日：令和6年9月14日（土）

場 所：大阪港中央突堤北岸壁・南岸壁他

○内航船員紹介ブース（中学生及び保護者を対象）

配布パンフレット等：「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）  
「船の仕事ってなに？」（ 〃 〃 ）  
「ペーパークラフト 貨物船他2種」（ 〃 〃 ）

○内航船の船内見学会等（京都府立海洋高等学校の生徒及び教員を対象）

- ・貨物船「島風（しまかじ）」の船内見学会 ----- 丸三海運（株）の協力
- ・操船シミュレータ体験 ----- 田渕海運（株）の協力



「C to Sea プロジェクト」  
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！  
海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

## 「内航船員紹介ブース」/海洋高校生対象「内航船見学会」等の開催概要



令和6年9月14日（土）、大阪港中央突堤北岸壁にて、京都府立海洋高等学校が実施する学校説明会及び実習船「みずなぎ」の船内見学会に併せて、全国内航タンカー海運組合関西支部・薬槽船支部と近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運（株）代表取締役会長）が、共同で「内航船員紹介ブース」を出展しました。

また、同日午後からは、京都府立海洋高等学校 航海船舶コースの2年生13名及び教員を対象に、内航船（貨物船）の船内見学会及び操船シミュレータ体験を実施しました。

### ○内航船員紹介ブース

実習船「みずなぎ」の船尾にある作業甲板を利用して、「内航船員紹介ブース」を出展し、学校説明会及び船内見学会に参加した中学生及び保護者を対象に、内航海運で活躍する船舶や船員について、パンフレットを活用して説明しました。保護者からは、船員になるには、どのような海技資格が必要なのか、この学校でどのような勉強をすればいいのかなど、質問がありました。



また、内航海運の重要性を知ってもらうため、ブース来場者に対して内航海運に興味・関心が持てるクイズを実施しました。

多くの方がブースに来場し、船員の日常の勤務体制やまとまった休暇がもらえ、給料も良いなどの話を聞き、船員を職業の選択肢として考えるきっかけになったものと思います。

### ○「みずなぎ」船内見学会（京都府立海洋高等学校主催）の様子



参加者は、船内の食堂で学校説明を受けた後、船内の設備や甲板、船員の居住空間や食堂などを見て回り、特に操舵室の見学では、びっしりと並ぶ操舵設備や機器類に目が釘付けになっている子どもたちもおり、実際に船に乗れたことで、ますます興味がわいたものと思います。

## ○海洋高校生対象「内航船見学会及び操船シミュレータ体験」



水産系高校の生徒は、内航船と内航船員に接する機会が少ないことから、内航船の実態等について理解を深めてもらうために、学校の依頼を受けて、実施しました。

当日は、丸三海運株式会社にご協力いただき、南港岸壁に停泊していた「島風（しまかじ）」（貨物船総トン数：1,594トン）において見学会を実施しました。

船内では2班に分かれ、船橋や機関室等を巡りながら、乗組員の方から船内設備や生活環境などの説明を受けました。また、当該船舶が、荷役中であったため、普段みることができない荷役作業に見入っていました。

次に、大阪市西区へ移動し、田渕海運株式会社にご協力いただき、操船シミュレータ体験を実施しました。当該シミュレータは、田渕海運株式会社が所有する模擬訓練装置であり、船内から見える海上の様子が、操船と連動して変化し、実際の操船を精巧に再現しているもので、生徒たちは、どのような操作をすると、船体がどのように動くかなどをわかりやすく体験できました。操作する生徒たちから歓声があがる場面もあり、非常に印象に残った体験となったのではないかと思います。



今回のように、共同ブースの出展や内航船の船内見学によって、水産系高校をめぐり中学生とその保護者や水産系高校の生徒に「海運」を理解してもらおうと共に、船員を職業の選択肢として考えるきっかけとなったと思います。今後も、引き続き近畿内航船員対策協議会及び近畿運輸局は、水産系高校や全国内航タンカー海運組合関西支部・薬槽船支部など、各方面と連携を取って内航海運のPR活動に努めて参ります。